

中島邦雄* 琉球新産，ウシオツメクサと アキザキナギランについて

Kunio NAKAJIMA* : On the Two New Additions to the Flora of the Ryukyus.

ウシオツメクサ (シオツメクサ, Fig. 1-A, B)

今日まで琉球からウシオツメクサ属は知られていなかったが、最近、沢岷安喜氏より1958年5月1日に那覇市泊で採集された一葉の標本の恵与を受けた。はじめ、ツメクサ属に近い、帰化品か、それとも自生品か迷った。幸い、水島正美先生にご精検をお願いしたところ、自生品のウシオツメクサで、しかも琉球に新分布なることが判明したのでここに報告する。

本種は海岸塩湿地生、1年か越年生草本。茎、基部より分岐、高さ13~23cm、上部、花柄、がくに腺毛がある。葉、対生、線形、鋭頭、無毛、長さ0.5~2cm、時々葉腋に葉束をつけ輪生状となる。托葉、膜質、下半分合生、長さ1.5~3mm。花、上部の葉腋からでて、やや総状花序のように(3-)4-5(-9)月に咲く。小柄1~4mm。がく片5、卵形、鈍頭、長さ3mm。花弁白色。北半球の温、暖、亜寒帯に広く分布する。なお、水島先生によれば、標本の採集地が内陸性でやや徒長気味になっているとのことであった。終りに、標本を同定いただき、種々ご教示いただいた東京都立大学牧野標本館の水島博士、それに当標本を御恵与下さった沢岷安喜氏に深く感謝する。後日のため本標本は明治山植物園におく。

アキザキナギラン (Fig. 2-A, B, C, D)

1967年8月、嘉津宇岳に採集した際、筆者は一見変わったラン科植物を1株得た。それはナギランに似るも、偽球が棒状で長いものである。それ以来、花を見る機会に恵まれなかったが、ついに数人の採集した株が、昨年末と今年始めに、花と果実を着けたので、充分観察することができ、アキザキナギランであることが分った。しかし、基種とすべきかと迷い、幸い記録や図と共に生品を大井次三郎先生に送付した所、鈴木吉五郎氏のご意見も付記され、アキザキナギランそのものであることをご教示いただいた。ここに、本種が今日まで琉球から初品であったので、今回報告したい。本品は嘉津宇岳において、人の出入の多い所で、ナギランよりも目立ちやすい存在で生えているのに、今日まで人目につかなかったのは不思議なくらいである。また、本品を南安和岳からも得ているが、安和岳からはまだ見出されていない。しかし、調査が進むにつれ、安和岳からも発見される可能性がある。

アキザキナギランはナギランに比べて、偽球が棒状で長く、葉は幅広く長くてやや薄質、先端に鋸歯がなく、花は葉よりも低く秋から冬に咲き、種子はやや長い点などでナギランと異なる。次にアキザキナギランの特徴を記しておく。

* 沖縄県名護市宇茂佐111 111, Umosa, Nago, Okinawa Prefect.

主に山地の林床（石灰岩の割れ目などにも多い）に生え、偽球は棒状となり高さ25～40 cm、径6～12mm、毎年春から夏にかけて新しく出る（花は今年度のものに着く）。鱗片葉は一茎に8、9個、長さ0.5～9.5cm、幅8～18mm、偽球を包む。葉は長さ13～25cm、幅2.5～6cm、やや薄く、縁にぎざぎざがなく、一茎に2～4（-5）枚を長さ5.5～10cmの柄の先に着ける。花茎は偽球の中央より下方に出し、長さ17～25cm、3～5節があり、上方

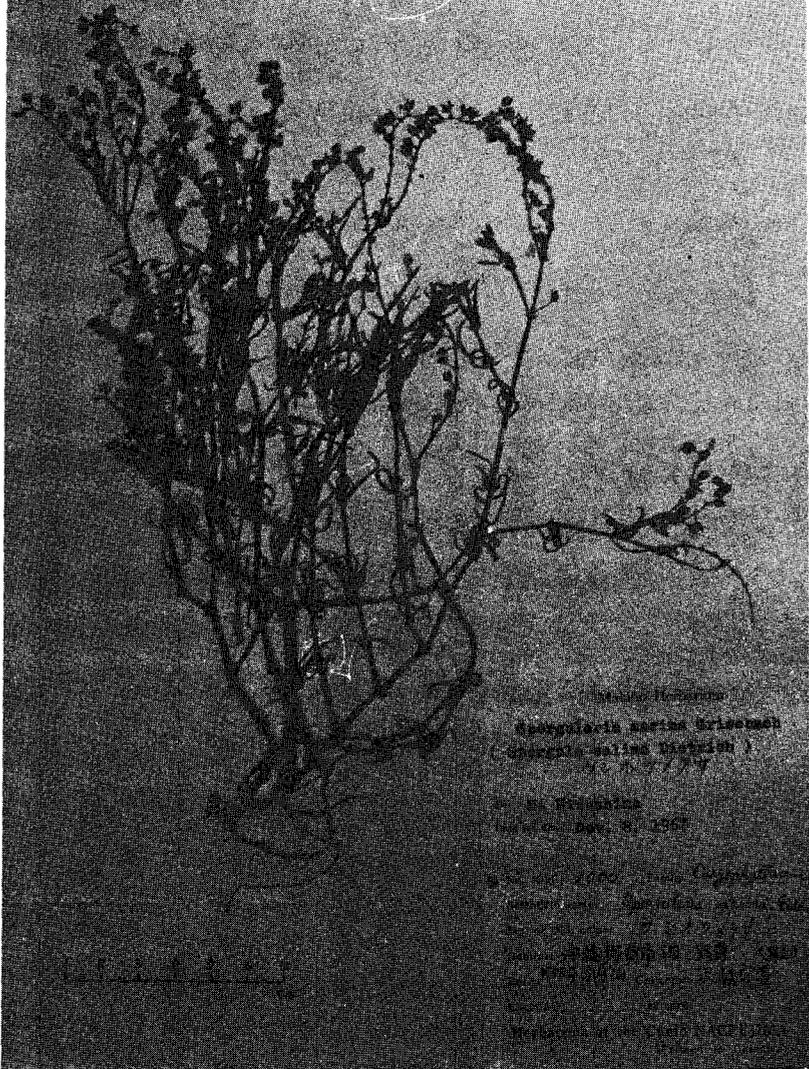


Fig. 1-A

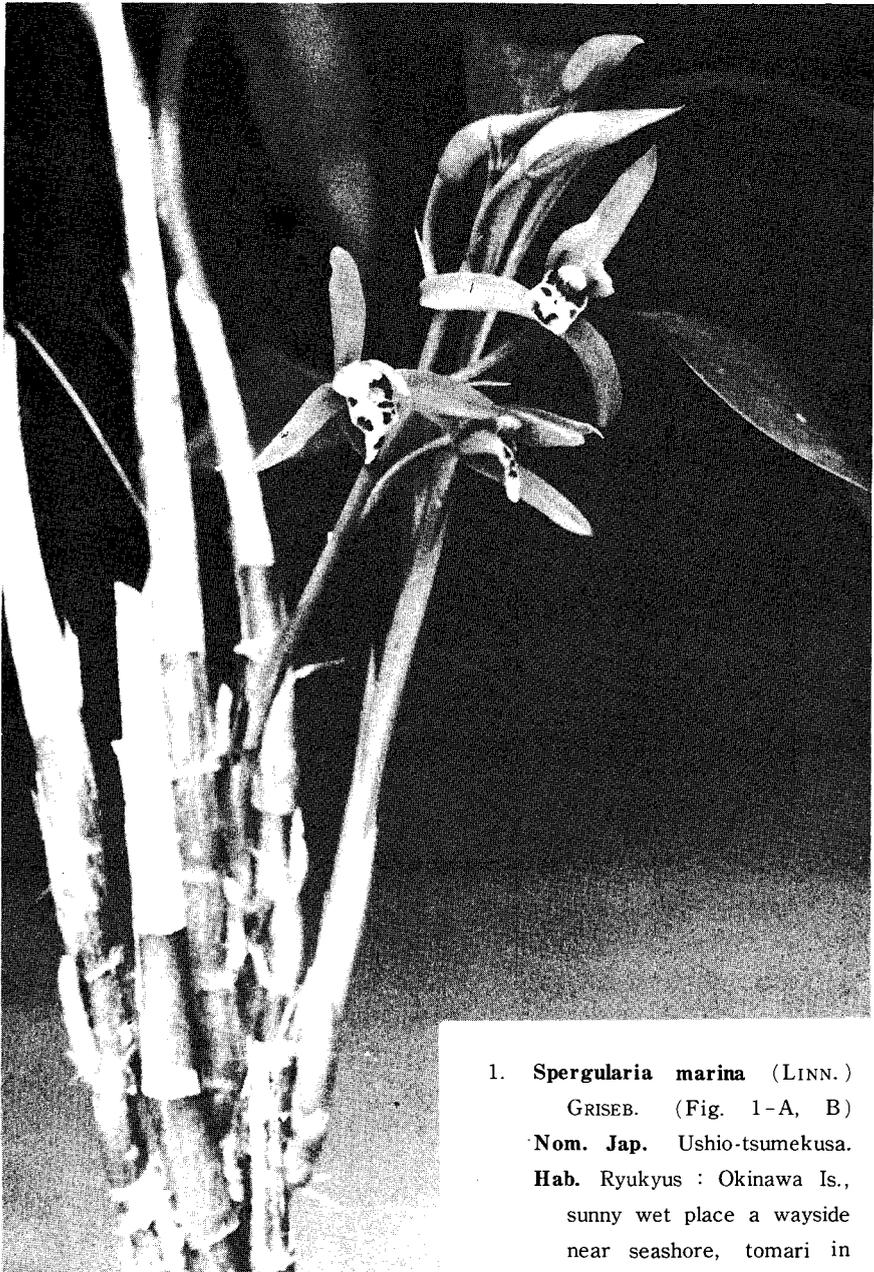


Fig. 1-B

に5~6個の花をまばらに着け、花は葉よりも低い。苞は長さ13~20mm、幅2~3mm。小花柄は長さ5~10mm。花は径約6cm、がく片と花弁は淡緑褐色で中央に暗紅色の一条があり、唇弁はやや白くまだらの暗紅色の斑点がある。がく片は長さ30~35mm、幅6~7mm、花弁は長さ約26mm、幅約6mm、唇弁は長さ約21mm、幅約18mm。ずい柱(花時)長さ15~20mm。果実は長さ4~5cm、径1.5~2cm、上向して2~5個着ける。

これまでにシュンラン属(*Cymbidium* SWARTZ)は、*Cym. kanran* MAKINO カンラン、*Cym. nagifolium* MASAMUNE ナギラン、*Cym. sinense* (ANDR.) WILLD. ホウサイランが沖縄から知られているが、今回のアキザキナギランを加えて4種となる。

本稿を草するに当り、生品を同定下さった大井次三郎博士(国立科学博物館)、鈴木吉五郎氏、果実の着いた生品をお与え下さった園原咲也先生、開花品の観察を許された小林昇、それに花や果実の貴重な写真を提供下さった比嘉弘(旭農園)の諸氏に対して心より感謝の意を捧げる。



1. ***Spargularia marina*** (LINN.)
GRISEB. (Fig. 1-A, B)
Nom. Jap. Ushio-tsumekusa.
Hab. Ryukyus : Okinawa Is.,
sunny wet place a wayside
near seashore, tomari in

Fig. 2-A Whole plant $\times 0.6$

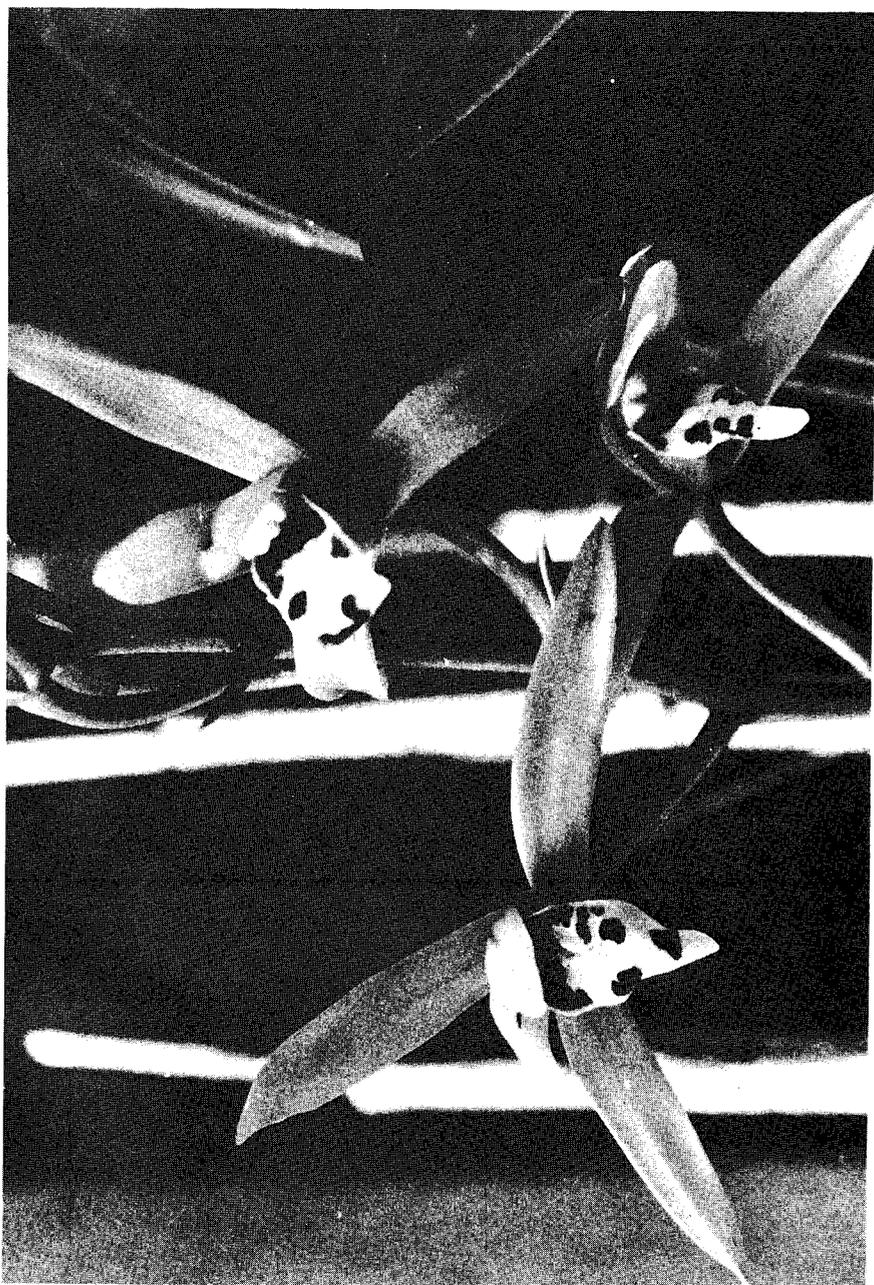


Fig. 2-B Flowers $\times 1.8$

Fig. 2-C, Fruits $\times 0.7$ Fig. 2-D A new bulb and leaves $\times 0.6$

Naha-city (May 1st, 1958 ; A. TAKUSHI-MEBG).

Distr. Japan, Korea, Manchuria, Sachalin and Northwards, a new to the flora of the Ryukyus (S. Okinawa).

2. **Cymbidium javanicum** BL. var. **aspidistrifolium** (FUKUYAMA) F. MAEKAWA (Fig. 2-A, B, C, D)

Nom. Jap. Akizaki-nagiran.

Hab. Ryukyus : Okinawa Is., Mt. Katsuu-dake (Aug. 16th, 1967-K. NAKAJIMA, May 13th, 1968-N. KOBAYASHI, H. HIGA, S. NISHI et A. NAKAZATO, Nov. 14th, 1968-S. TERUYA, Mar. 31st. et Apr. 7th, 1969-K. NAKAJIMA), Mt. Minamiawa-dake, Kunigami (Jan. 10th, 1969-K. NAKAJIMA - cult. in MEBG).

Distr. S. Japan, Formosa, a new to the flora of the Ryukyus (Okinawa Is.).